誰もが活躍できる未来のために

REPORT
No.56

埼玉県議会議員 無所属

平松だいすけ

無所属県民会議新座支部　埼玉県新座市野寺 2-8-48　電話 048-458-3195
URL https://hiramatu.net　メール daisuke@hiramatu.net　Fax 048-458-3196

皆さまのご意見や公約をもとに様々な問題に取り組み、HP や SNS 等でお伝えしてきましたが、改めて主な取組をご報告します。

新型コロナウイルス対策に引き続き取り組みます

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会

事業者や医療従事者など、新型コロナウイルスにより大きな影響を受けている方々から多くのご相談をいただき、その問題解決に取り組んできました。

また、新型コロナウイルス感染症対策特別委員会の委員として、県の情報発信の弱さ、相談体制の脆弱性などを指摘し、まだ解決できていないこともありますが、改善を図ってきました。

教育問題ではコロナ禍にあっても子供たちの学びを止めないため、オンラインの有効活用を提案すると共に、コロナが不安で登校できない県内児童生徒の調査を行うよう提案。調査が実施され、実態が明らかになりました。児童生徒への支援を行っていくとの回答も引き出しました。この調査結果は新聞報道もされました。また、会派の政策調査会のメンバーとして、実際に入院された方、ホテル療養中の方、最前線で働く方々からヒアリングをし、要望に盛り込んできました。

引き続き困難な状況にある方々に寄り添い、取組を進めていきます。

要望を知事に

大規模接種会場調査

設置を強く求めていた児童相談所が朝霞市内に新設されます

朝霞地区への児童相談所の新設は、会派として議会で取り上げたり、知事に要望を行うなど、様々な形で粘り強く取り組んできた問題です。このような活動を受けて大野知事が決断、朝霞市内への新設が決定し、予算が計上されました。一時保護所併設の児童相談所については以下のような形で決定しました。

- **建設場所**：朝霞市内
- **開設時期**：令和 7 年度予定
- **所管区域**：新座市、朝霞市、志木市、和光市、富士見市、ふじみ野市、三芳町

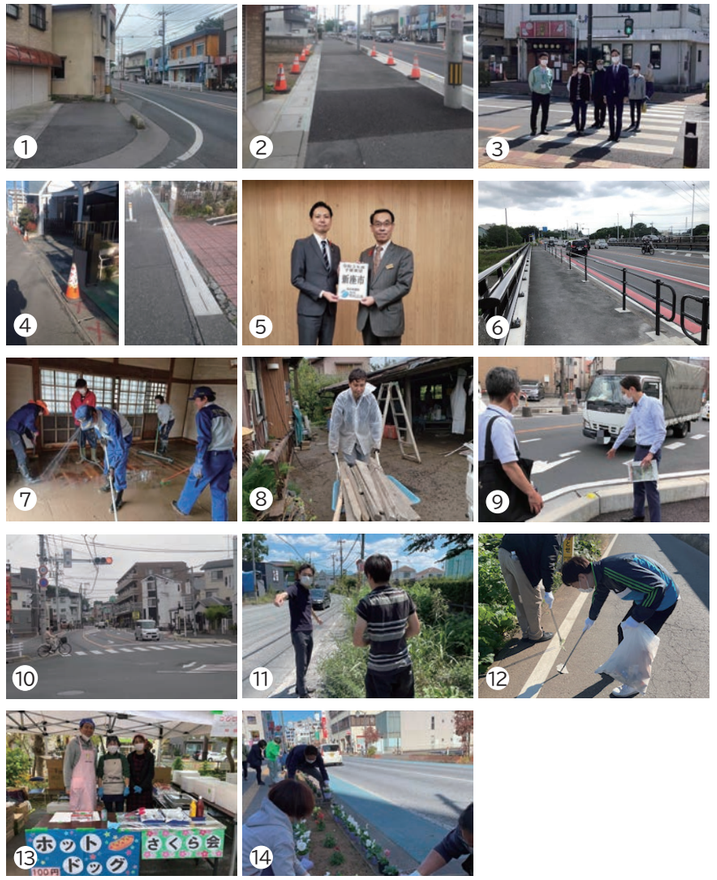
※今まで新座市は所沢児童相談所の所管。所沢児童相談所と川越児童相談所の所管人口は全国平均の約 2 倍の 110 万人を超えていたが、新設により、所管人口の平準化を図ることができます。

受験生を狙った痴漢への対策を求め県警の対策が実施されました

1月に行われた共通テストの受験生を狙った痴漢予告がSNS上やネット掲示板上でされているとの情報を得て、県警察本部と協議、対策を求めました。その結果、共通テスト当日、主要駅で立哨警戒、列車に乗車しての警戒、各警察署での警戒が実施されました。

地元の問題にも全力で取り組みました

多くの皆様から危険な歩道対策などご相談をいただきました。早速、歩道の整備、信号機の設置などを県と協議、写真の通り実施することができました。また、コロナ禍であっても感染対策を実施した上で、地域の皆様のお声をお聞きすべく、共に活動を行いました。これからも皆様の想いに向き合い、結果を出していきます。



①② **片山交差点近くの歩道未整備区間**について、地権者と平松が直接お話をし、ご協力のご快諾をいただき、**歩道整備が実現**

③ 地元の皆様から要望をいただき県警と協議、時間はかかりましたが**栗原5丁目に手押し式信号機の設置が実現**

④ **危険な側溝**のご相談をいただき県と協議、すぐに**安全なものとの交換が実現（東北2丁目、栗原）**

⑤（毎年度実施）**新座市の課題**を直接知事に要望

⑥ **地元高校生から歩道の通行が危険**と相談があり、県と協議、**ガードパイプ設置が実現**

⑦ 台風被害を受けた東松山市の現地調査とともに**災害ボランティア活動**の実施

⑧ 台風被害を受けた千葉県の現地調査とともに**災害ボランティア活動**の実施

⑨ 県職員と共に現場に向かい、**安全対策を協議**

⑩ 協議の結果、**右折レーンが設置された栗原交差点**

⑪ **市民の方からの声を**現地にてお聞きし改善策が実現（西堀）

⑫ 新座市商工会青年部の清掃活動に参加、様々なご意見をいただく

⑬ 毎年恒例の「二中フェスタ」のお手伝い（コロナ発生前）

⑭ 志木駅前の花壇植え替えに参加、様々なご意見をいただく

引き続き、皆様の命とくらしを守るため、そしてお約束した公約の実現に向けて取組を進めてまいります。
お気づきのことがありましたら、遠慮なくお声をお寄せください。ご連絡をお待ちしております。
メール daisuke@hiramatu.net
※Facebook など SNS からのご連絡もお待ちしております。

平松だいすけ プロフィール

- 昭和 52 年 11 月 18 日生まれ。両親は山口県出身。三人兄弟の長男。東北二丁目在住。
- 十文字短大付属幼稚園、新座市立東北小学校、新座市立第二中学校、埼玉県立浦和西高校を経て、東海大学政治経済学部卒業。
- 平成 16 年より新座市議会議員。2 期連続当選後（2 期目はトップ当選 ）、平成 24 年 7 月、新座市長選挙に立候補するも落選。
- 落選後は民間企業に勤務、新規に自治体向け情報誌「自治体通信」を立ち上げる。
- 平成 28 年 2 月に再び新座市議会議員選挙でトップ当選。
- 平成 31 年 4 月、埼玉県議会議員選挙で 19,744 票をいただきトップ当選。
- 心がけていること「巧詐は拙誠に如かず（巧みに偽り人を欺こうとしても、拙くとも誠意を示すことにはかなわない）君子は和して同ぜず（優れた人間は調和をしながらも、主体性を失わず、安易に同調しない。）」

県議会での主な取組

更なる子供の貧困対策を

日本では子供の7人に1人が貧困状態（先進国で最低レベル）。貧困家庭の子供は再び貧困に陥りやすく、この貧困の連鎖を断ち切るため質問を行いました。

Q 市町村での取組の差の解消を。

A 今後は市町村職員に、子供の貧困対策計画の策定や地域ネットワークづくりの研修を実施し、取組が活発に展開されるよう支援する。

Q 学びの貧困が、貧困の連鎖の大きな原因にもなっている。貧困家庭の子供たち向けの学習支援事業が後退することがないようにするべき。

A 貧困の連鎖解消に有効であると考えており、市に対し引き続き支援を行う。

Q 経済的貧困そのものを低減・緩和させる更なる取組を。

A ひとり親家庭の約7割は養育費を受け取っておらず、養育費確保に向けた啓発や相談対応に力を入れている。地域の自発的な取組が広がってきており、更なる支援の充実を図っていく。

子ども食堂の状況を伺いながらお手伝い

新座団地付近の汚水逆流対策を

台風などにより新座団地付近で汚水が逆流し大きな被害が発生。汚水管に雨水が入り満管状態になったことが原因でした。早速県議会で汚水の逆流防止策を求め、以下の答弁を引き出しました。

答弁：雨水が汚水管に大量に入り込むことが主な原因なので、対策を行う。一方、議員指摘の通り、雨天時の浸入水対策は、時間と予算を要するので、まずは汚水管上流からの流入量を減少させるため、接続点に設置されているゲートを絞ることにした。

DXの推進を

デジタル化の遅れが、日本経済の凋落につながっています。埼玉から日本を元気にするため、県がDXをリードし、イノベーションを生み出していく必要があると考え、質問を行いました。

Q DXを進めるには中長期的なデジタル人材育成が重要であり、職位や業務内容に応じたスキルを計画的に習得できるよう職員の育成プログラムが必要と考えるがいかがか。

A 議員指摘の通り、DX推進に必要なデジタル人材像を明確にした上で、中長期的な育成の指針を定め、全職員が求められるデジタルスキルを身に付けられるよう取り組む。

Q 内部に知識のある人材、CDO（最高デジタル責任者）を設置しては。

A ある段階ではCDO設置を検討したいと思っているが、現段階はその前の全職員をデジタルの方に向けていく段階である。

Q 中長期的には内部人材の育成が重要だが、短期的には、積極的に外部からデジタル人材を採用すべきではないか。

A デジタル人材の不足は深刻だが、今後も諦めずに、採用の努力をする。

積極的なスタートアップ・ベンチャー支援を

ベンチャースピリッツは今の日本にこそ必要な精神であり、停滞した日本経済を変えるには、新しいビジネスモデルで新しい市場を創出するようなスタートアップ・ベンチャーが必要です。県が育成支援を行い、経済の活性化を促すべきと考えて質問を行いました。

Q ベンチャー支援を検討する有識者会議のメンバーにスタートアップ・ベンチャーに精通した経営者、専門家が必要と考えるがいかがか。

A そのような方達の参画を目指す。

Q 高校生への起業家教育の充実を図るべきでは。

A 今後は、海外進出した起業家など、生徒が大きな夢を抱けるような経験を持った方も講師とし、起業への意識をより高められる講座にしていきたい。

Q 高校生向けの起業家養成プログラムを実施してはどうか。

A まずは、起業に興味のある高校生を対象に、ビジネスプランの作成やマーケティングセミナー開催など学びの場を提供していきたい。起業家養成プログラムは今後検討する。

Q 大学と連携して起業したい、或いは起業した学生たちと県内の研究機関や企業などとマッチングさせ、学生ベンチャーを創出するプラットフォームを作ってはいかがか。

A 大学生起業家の育成・支援の重要性は高まっているが、大学生に特化した支援は行っていなかった。今後は大学との連携を深め、ビジネスプランコンテストの実施など大学生起業家の育成に向けた取組を検討したい。また、（仮称）渋沢栄一起業家サロンにおいて大学や研究機関などと連携し、様々なマッチングが生まれる取組を考える。

障害者優先調達方針の推進を

障がい者の自立には更なる工賃の向上が必要です。そのためにも重要な優先調達方針が活かされているとは言い難く、質問を行いました。

Q 各部局で施設が請け負える業務を切り出し、優先調達の目標を設定し達成すべきではないか。

A 全庁で障がい者就労施設の調達額を増やせるよう、取り組んでいく。

障がい者の方々が働く様子

Q 市町村にも施設が請け負える仕事の切り出しを働きかけ、工賃向上につなげるべきではないか。

A 市町村の調達額を更に増やせるよう努力していきたい。

学校教育でのICT活用を

日本の学校教育のICT活用はOECD諸国の中で桁違いに遅れるなど世界から取り残され、その弊害も生じています。また、私自身、民間勤務の際に公立学校と私立学校の差を痛感しました。変化の激しい時代を生き抜く力を学校で身に着けてもらうため、質問を行いました。

Q 今年から高校に入学する生徒たちはすでにICT環境が整った中で学んでいる。生徒のスマートフォン等を使用する高校とは相当な落差がある。県立学校での端末導入は期限を区切り、県が責任を持って早急に実施すべきだ。

A 県立高校では生徒のスマートフォンを含む1人1台端末の環境だが、議員指摘の通り、できるだけ同じような端末を学習に使うべきと考える。令和5年度から端末導入が進むよう取組む。

Q ICT活用状況は自治体によってかなり差がある。正確な実態把握の上、フォローが必要と考えるがどうか。

A 市町村の活用状況の違いは、教員の指導力や端末使用のスキルの差、校内推進体制が十分に整備されていないことなどによると考える。県ではICT支援員などとWeb相談窓口を設置している。今後も、学校現場の実態を正確に把握し、ICTの効果的な活用が進むよう積極的に取り組む。

その他の質問・質疑

- 1 県民と共に進めるDXについて
- 2 DXを進める上での効果的な情報共有について
- 3 生物多様性保全戦略について (1) 科学的知見に基づいた緑地の評価実施を (2) 戦略実現のための財源確保を (3) 県がイニシアティブをとって戦略の実現を
- 4 民生委員・児童委員の欠員補充への柔軟な対応を
- 5 埼玉版スーパー・シティプロジェクト成功のため、市町村への財政支援を
- 6 大江戸線延伸について
- 7 NPOの戦略的育成を
- 8 頻発する風水害への備えを
- 9 学校教育情報化推進計画の早期策定を
- 10 ICT教育推進課の体制強化を
- 11 EdTech推進方針の策定を
- 12 県内市町村の小学校・中学校、県立学校の校内ネットワークの整備について
- 13 県内市町村の小学校・中学校の端末整備計画について
- 14 県立学校での端末の整備について
- 15 下水道に関する意識の向上について
- 16 栗原交差点改良について
- 17 県道保谷朝霞線について
- 18 志木街道の歩道整備を
- 19 保育園の待機児童問題、保育士の確保について
- 20 身近な緑の保全について
- 21 県内産業のデジタル化支援について
- 22 教育ICT支援員について
- 23 教教員用PCの授業活用について
- 24 災害防災拠点校について
- 25 災害情報サポーターについて

予算審議会での質疑の様子